

Windows 2000で使用するときのご注意

弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

ここでは、弊社製 IFML-560/PCI を Windows 2000 で使うための手順について説明しています。

**まず、弊社ホームページ上から、最新のサポートソフトを
入手し、サポートソフトディスクを作成してください。
(詳細は弊社ホームページをご覧ください。)**

もくじ

インストール編 (必須)

本製品を Windows 2000 で使用するときは、必ず、行ってください。

- ・サポートソフトのインストール・・・・・・・・・・ P3
- ・インストール終了後の確認と設定・・・・・・・・・・ P9
- ・インストールした情報を削除する場合・・・・・・・・ P16

インターネット編

- ・インターネットを楽しむまでの手順・・・・・・・・ P21
- ・ダイヤルアップ接続の設定・・・・・・・・・・ P22
- ・インターネットを楽しもう・・・・・・・・・・ P30

困ったときには

- ・インストール時のトラブル・・・・・・・・・・ P37
- ・インターネット接続時のトラブル・・・・・・・・ P39
- ・その他のトラブル・・・・・・・・・・ P43

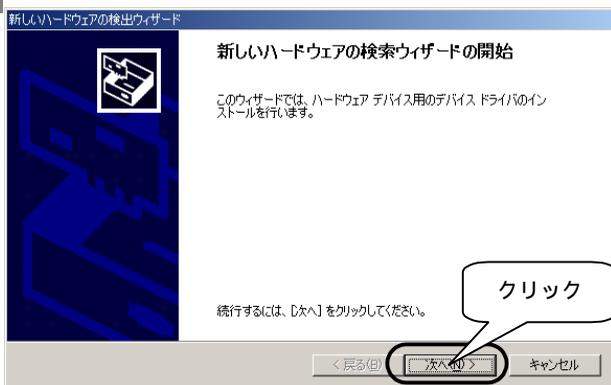
《インストール編》 サポートソフトのインストール

ここで説明するインストール作業は、はじめて本製品を取り付けたときだけ行います。次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

- 1 本製品と電話回線(モジュージャック)との接続を確認後、パソコンの電源を入れ、Windows 2000 を起動します。

Windows 2000 が本製品を自動的に検出します。

- 2 しばらくして下記の画面が表示されたら [次へ] をクリックします。

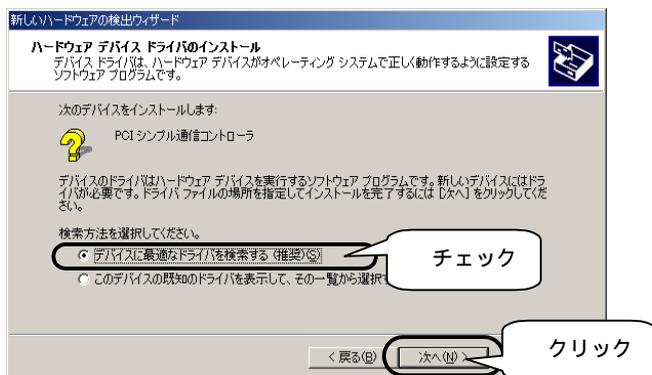


このインストール画面が
表示されない場合は...

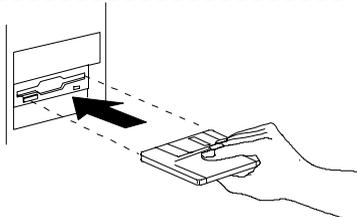
【困ったときには】
本書 P37 をご参照ください。

3

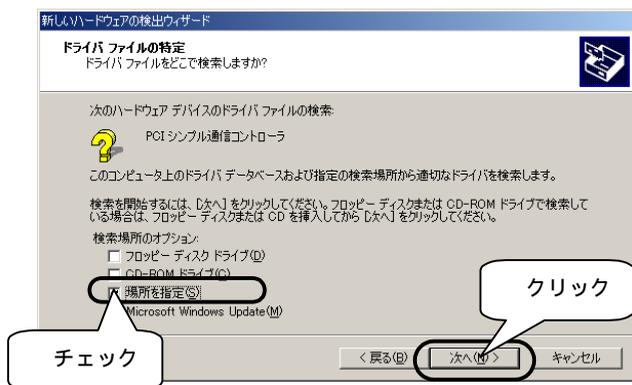
[デバイスに最適なドライバを検索する]をチェックし、[次へ]をクリックします。

**4**

弊社ホームページより入手 作成した [サポート フロ] ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

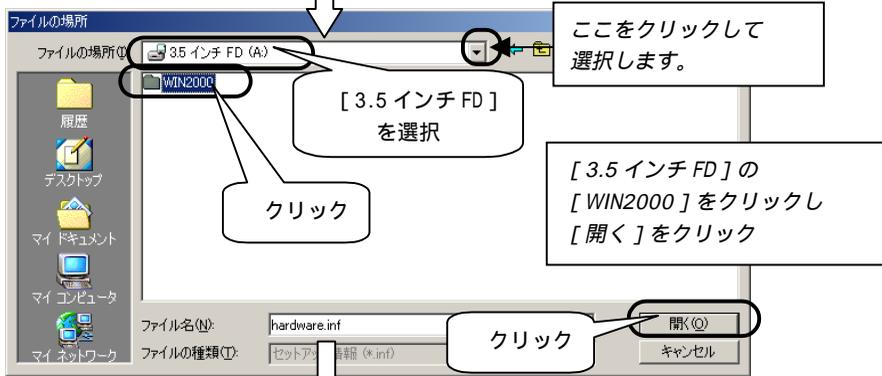
**5**

[場所を指定]のみをチェックし(その他の項目のチェックは外してください) [次へ]をクリックします。



6

[参照]をクリックして、[3.5インチ FD] (ここでは A:)内の「Win2000」を指定します。
 指定後、[OK]をクリックします。



(次ページへ)

(前ページからの続き)



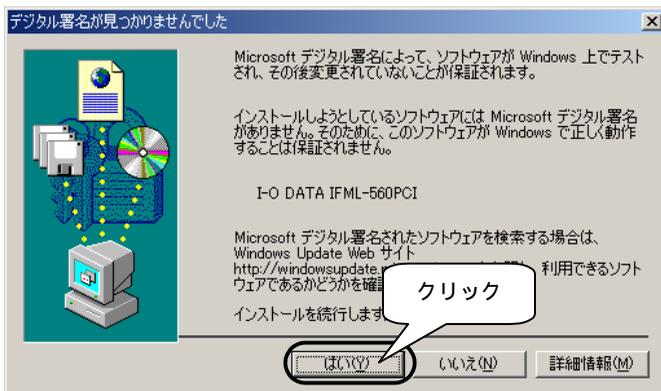
[次へ] をクリックします。



8

以下の画面が表示されますが、[はい]をクリックします。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いという、メッセージが表示されますが、そのまま続行します。



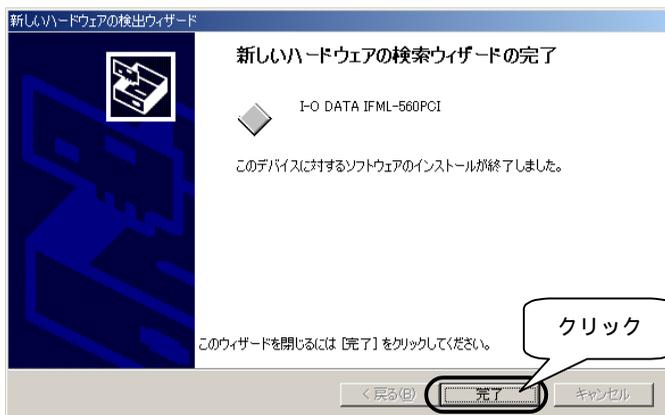
参考

マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。

弊社では順次手続きを行なう予定ですが、このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

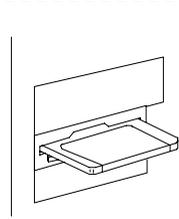
9

[完了]をクリックします。



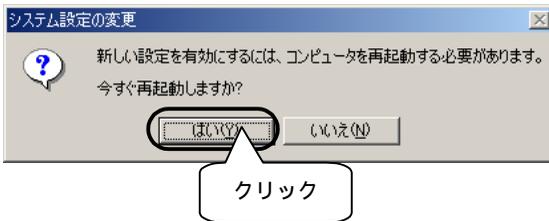
10

以上でインストールされますので、
「サポート」フロッピーディスクを
取り出してください。



11

以下の画面が表示された場合は、[はい]をクリックしてパソコンを
再起動してください。
表示されなかった場合は、手動でパソコンを再起動してください。



以上でインストールは終了です。

次は正しくインストールできたかを確認し、モデムを設定します。
次ページ【インストール終了後の確認と設定】へお進みください。



《インストール編》 インストール終了後の確認と設定

インストールが終了したら、パソコンが本製品を正しく認識したかどうかの確認と、モデムの設定を行います。



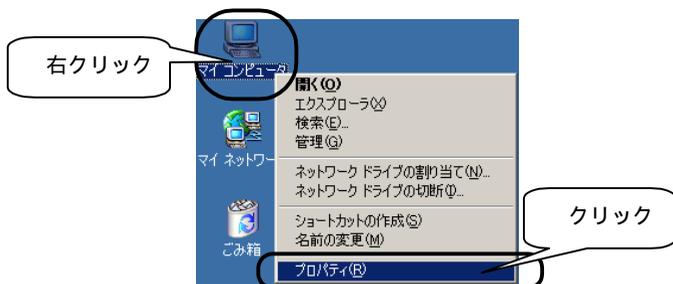
注意！

本製品の パフォーマンス を引き出すため、端末速度を57600bps以上に設定してください。
(P130 手順5参照)

デバイス マネージャ による 確認と設定

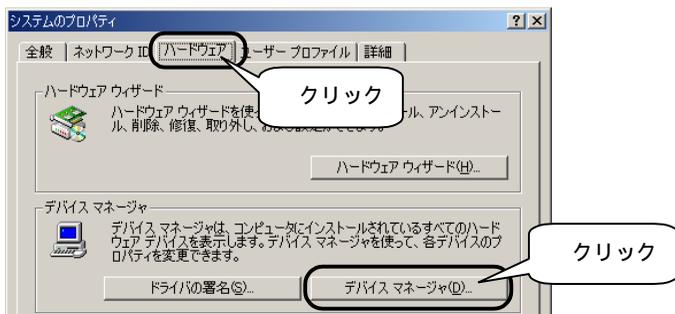
1

[マイコンピュータ]を右クリックし、メニュー内の [プロパティ]をクリックします。



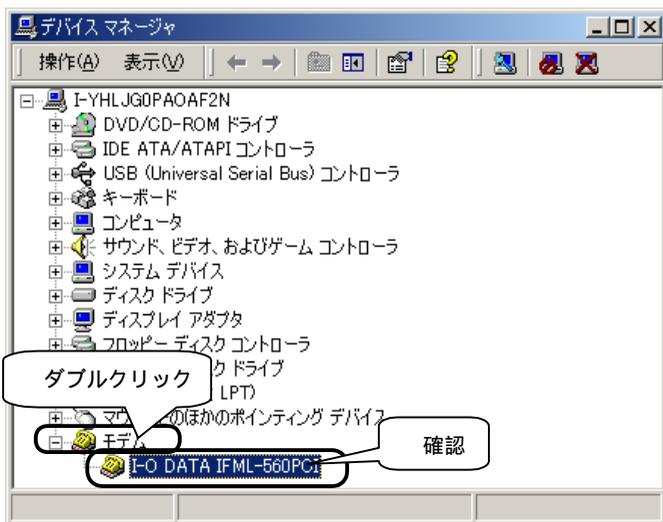
2

[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイス マネージャ]をクリックします。



3

デバイス マネージャ画面の [モデム] をダブルクリックして、「I-O DATA IFML-560PCI」が表示されていることを確認します。また、頭に「！」マークが表示されていないことも確認します。確認後、画面を閉じてください。



「I-O DATA IFML-560PCI」が表示されない、あるいは頭に「！」マークがある場合は...

【困ったときには】
本書P38をご参照ください。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。次にモデムとしての設定を行います。

モデムの 確認と設定

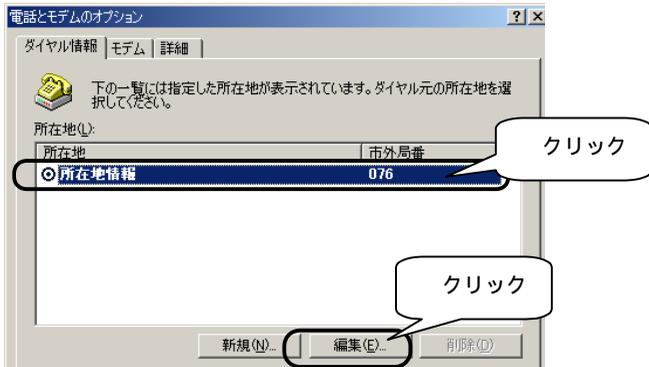
1

[スタート] [設定] [コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムの オプション] アイコンをダブルクリックします。



2

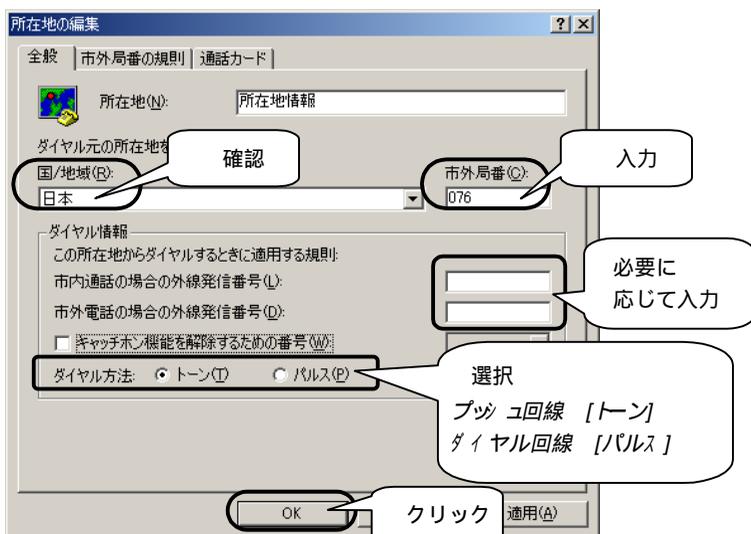
[所在地情報]をクリックし、[編集]をクリックします。



3

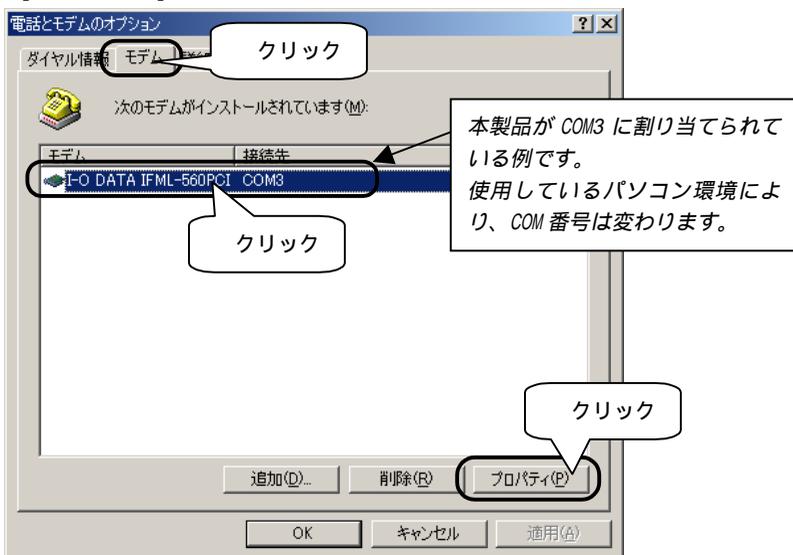
[全般]タブで、必要な情報を設定し、[OK]をクリックします。

No	項目	設定内容
	国/地域	[日本]であることを確認
	市外局番	市外局番を入力
	外線発信番号	「0(セ`D)発信」などの回線の場合に「0」(セ`D)を入力 「キ ャツ ホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
	ダイヤル方法	プッシュ回線なら「トーン」 ダイヤル回線なら「パルス」



4

[モデム]タブをクリックし、[I-O DATA IFML-560PCI]、続けて
[プロパティ]をクリックします。



「I-O DATA IFML-560PCI」が
表示されない場合は...

【困ったときには】
本書 P38 をご参照ください。

5

[全般]タブで、[ポートの最高速度]を、選択肢中で一番速い速度に設定します。

最高速度には 選択できる 速度のうち、最高の 速度 (115,200bps が 望ましい)を 設定しておく と、最大パフオーマンス が 引き出 せ ます。



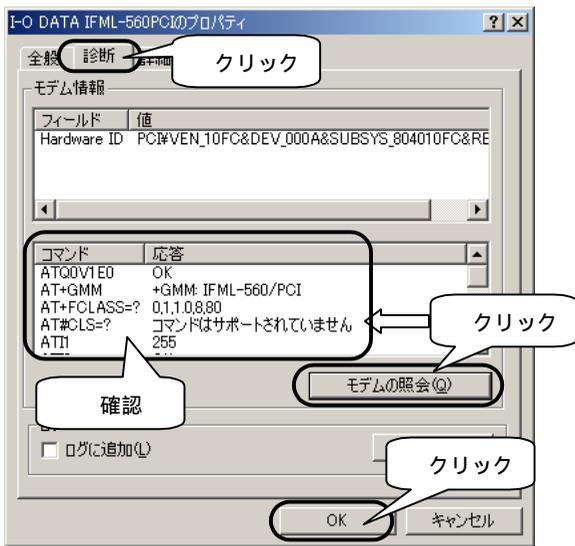
参考

1. ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。
2. ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。

6

[診断]タブをクリックし、[モデムの照会]をクリックすると、しばらくして下記のように表示されます。確認後、[OK]をクリックします。

[コマンド][応答]の部分が真っ白ではなく、「AT……」と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



注意!

この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して接続するテストではありません。



[OK]ボタンをクリックし、[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

これで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。

1度これらのインストールを行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

本製品の使用を中止したいときや、もう1度インストールをやり直したいときは、次ページからの【インストールした情報を削除する場合】をご参照になり、サポートソフトのアンインストールを行ってください。

本製品でインターネットを楽しみたい方のために、P21【インターネットを楽しむまでの手順】からP30【インターネットを楽しもう】では、インターネットへの接続方法をわかりやすく説明してあります。はじめてインターネットをご使用になる方は是非、ご参照ください。



《インストール編》

インストールした情報を削除する場合

本製品の使用を中止したいときや、インストールをもう1度やり直すときは、インストールした情報を削除する（アンインストール）必要があります。

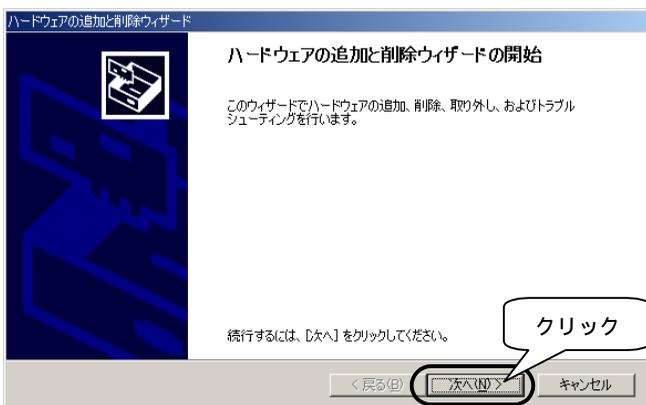
1

『スタート』『設定』『コントロールパネル』を順にクリックし、『ハードウェアの追加と削除』アイコンをダブルクリックします。



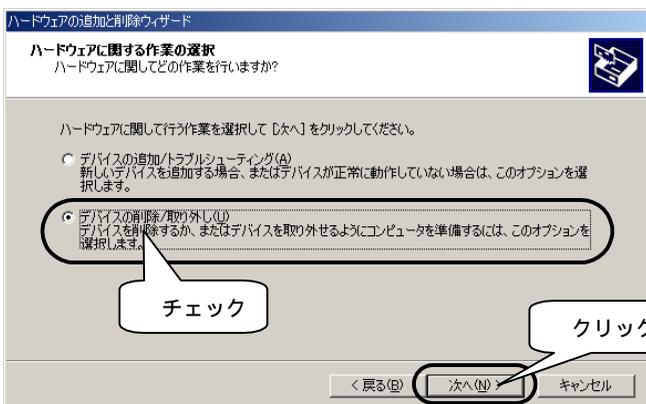
2

[次へ]をクリックします。



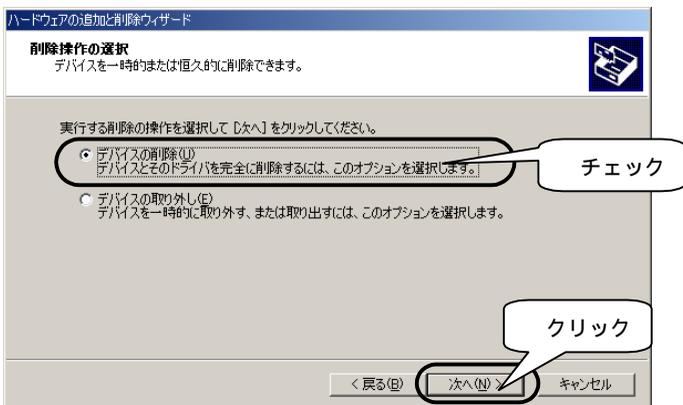
3

[デバイスの削除/取り外し]をチェックし、[次へ]をクリックします。



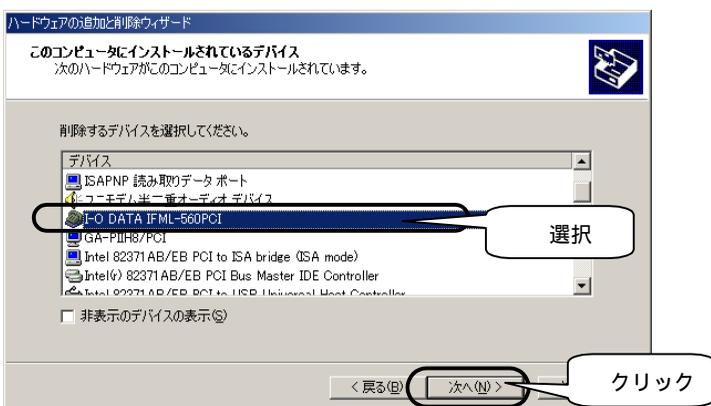
4

[デバイスの削除]をチェックし、[次へ]をクリックします。



5

[I-O DATA IFML-560PCI]を選択し、[次へ]をクリックします。



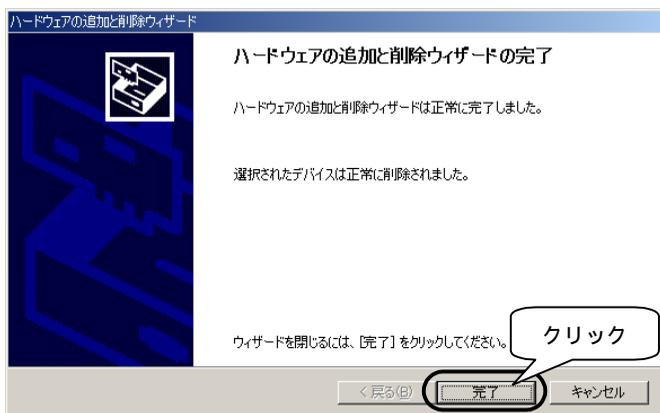
6

[はい、この デバイス を削除します]をチエックし、[次へ]をクリックします。



7

[完了]をクリックします。



8

『スタート』『検索』『ファイルやフォルダ』を順にクリックします。

9

以下を入力し、[検索開始]をクリックします。

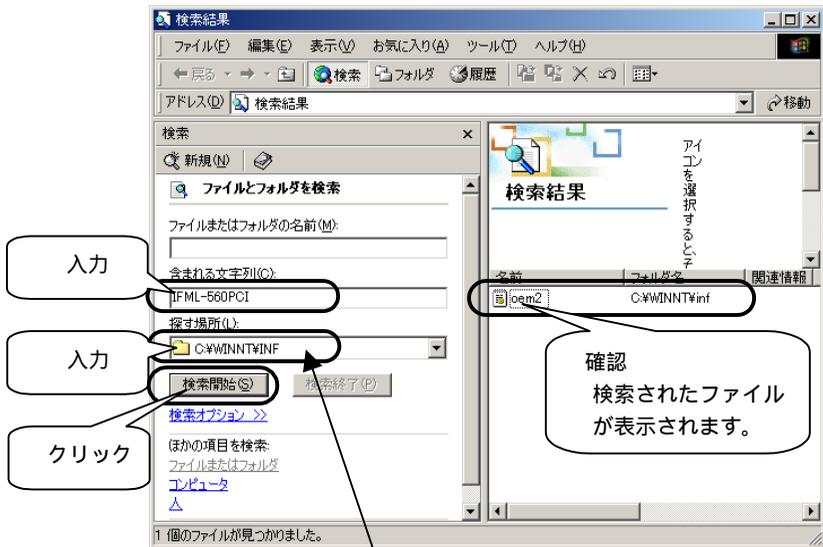
[含まれる文字列] : IFML-560PCI

[探す場所] : C:\WINNT\INF

(Windows 2000 が WINNT フォルダにインストールされている場合)

検索後、検索されたファイルが表示されます。

画面例では OEM2 が検索されていますが、ファイル名はお使いのパソコンにより異なります。



[探す場所]の入力方法

探す場所に既に表示されている項目(ローカルディスク)等をクリックします。



[Delete]キーでその項目を削除します。

削除後 C:\WINNT\INF を入力します。

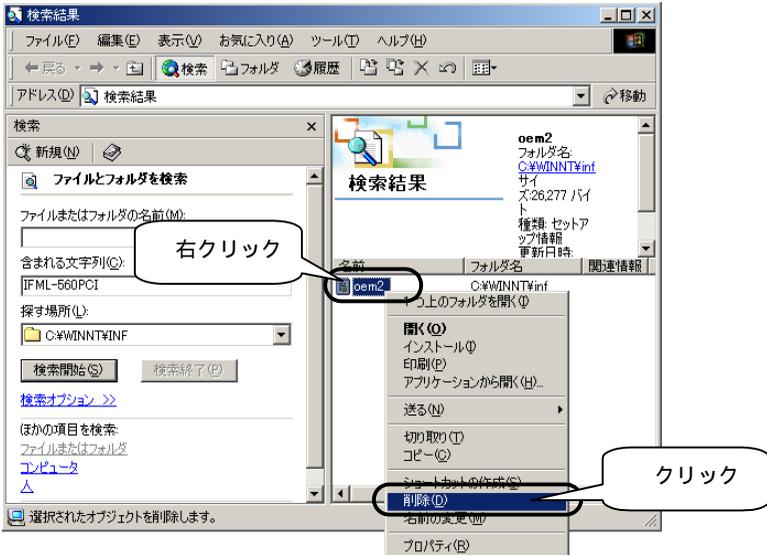


注意!

1. 検索には、お使いのパソコンにより数分かかる場合があります。
2. 検索されるファイル名は、お使いのパソコンにより異なります。(上記画面例では、OEM2 のファイルが検索されています。)

10

検索されたファイルを右クリックし、表示されたメニュー内の [削除] をクリックします。



11

後は 画面の 指示に従ってください。

本製品をパソコンから取り外す際は、アンインストール後にパソコンの電源を切ってから取り外してください。

以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。



《インターネット編》

インターネットを楽しむまでの手順

ご使用のパソコンではじめてインターネットを行うときは、下記の手順通り、順番に行ってください。ご使用のパソコンでインターネットを行ったことがある場合は、次ページ【ダイヤルアップ接続の設定】から行ってください。

プロバイダと契約する

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

契約後、接続のためのユーザー名、パスワード、接続先の電話番号などをプロバイダから教えてもらいます。接続にはこれらの情報が必要です。



ダイヤルアップ接続の設定 (P 22)

本製品を使ったダイヤルアップ接続を設定します。

本製品をはじめて使う場合は必ず行ってください。



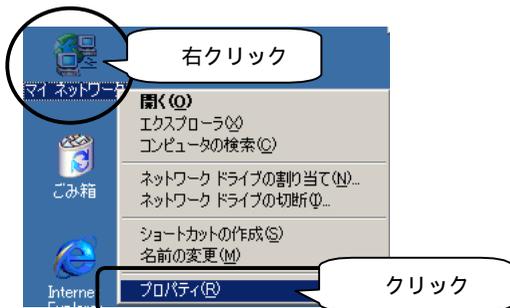
インターネットを楽しもう (P 30)

本製品を使ってダイヤルアップし、インターネットへ接続してみましょう。

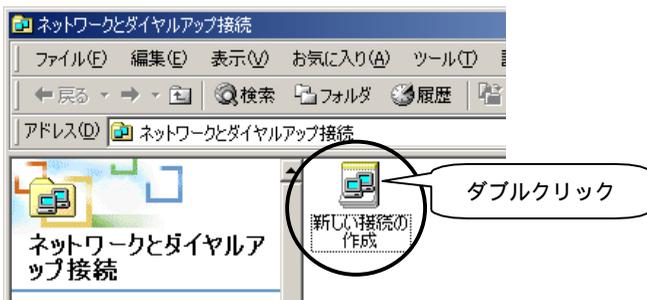
《インターネット編》 ダイヤルアップ接続の設定

インターネットに接続するには、ダイヤルアップ接続の設定が必要です。

- 1 『マイ ネットワーク』を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。

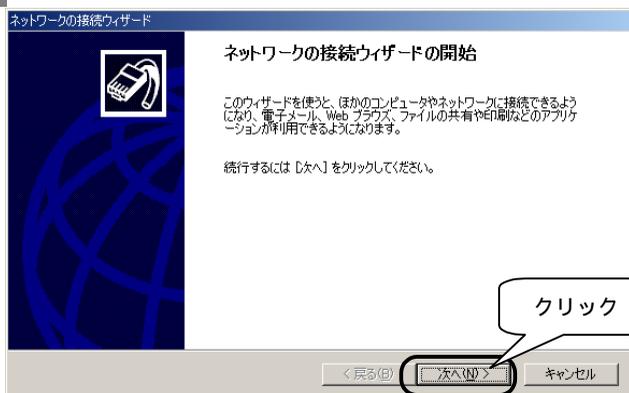


- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続]画面の [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



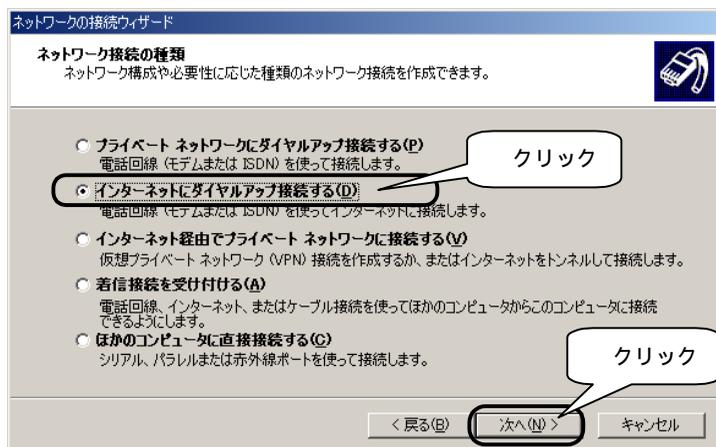
3

[次へ]をクリックします。



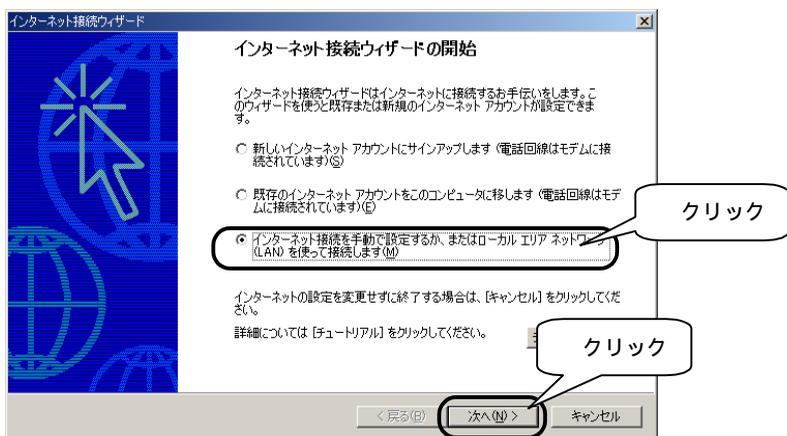
4

[インターネットにダイヤルアップ接続する]をクリックし、[次へ]をクリックします。



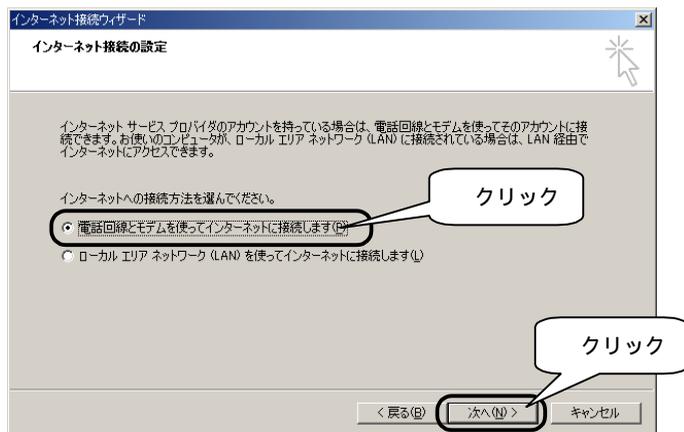
5

[インターネット接続を手動で設定するか、……]をクリックし、
[次へ]をクリックします。



6

[電話回線とモデムを使ってインターネット接続します]をクリックし、
[次へ]をクリックします。

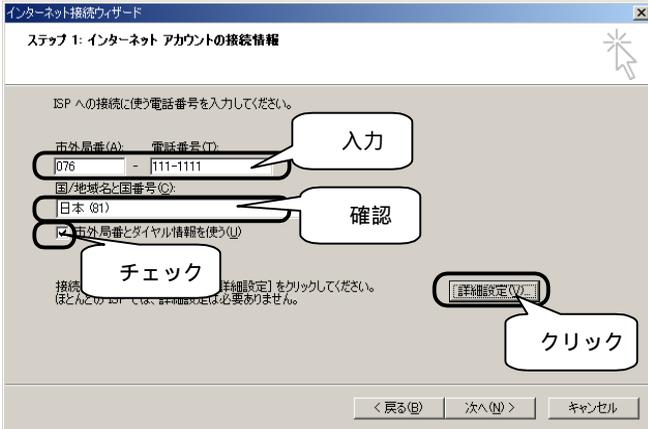


7

接続先 (プロバイダ) の電話番号を入力し、国名が日本になっていることを確認します。

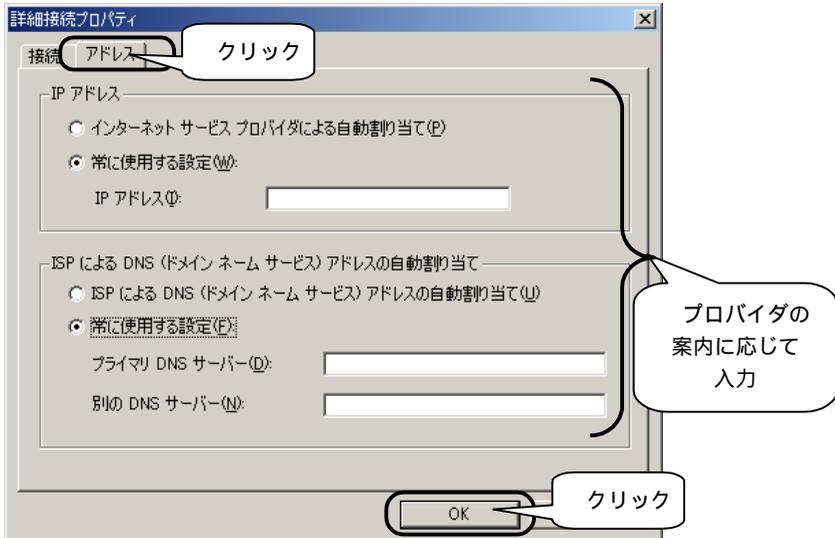
[市外局番とダイヤル情報を使う]をチェックします。

設定後、[詳細設定]をクリックします。



8

[詳細接続プロパティ]画面の [アドレス] タブをクリックし、プロバイダの案内に応じて [IP アドレス] や [DNS サーバー] を設定し、[OK] をクリックします。



9

[インターネット接続ウィザード]画面に戻りますので、[次へ]をクリックします。

10

[次へ]をクリックします。

11

プロバイダから通知された [ユーザー名] や [パスワード] を入力し、[次へ] をクリックします。

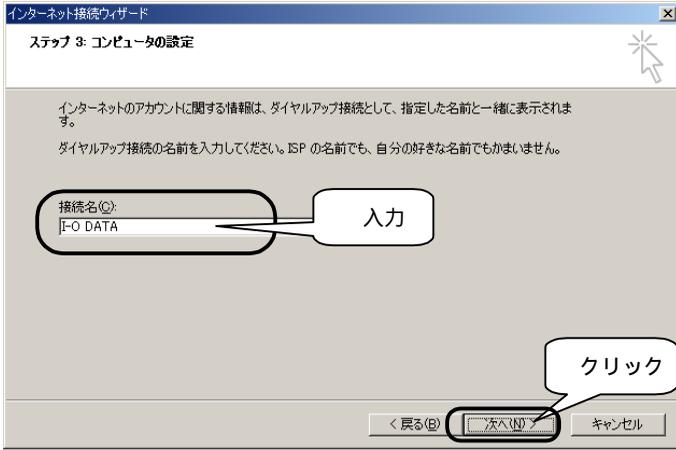


注意！

パスワードは「*****」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの
大文字小文字などを間違えないように注意してください。

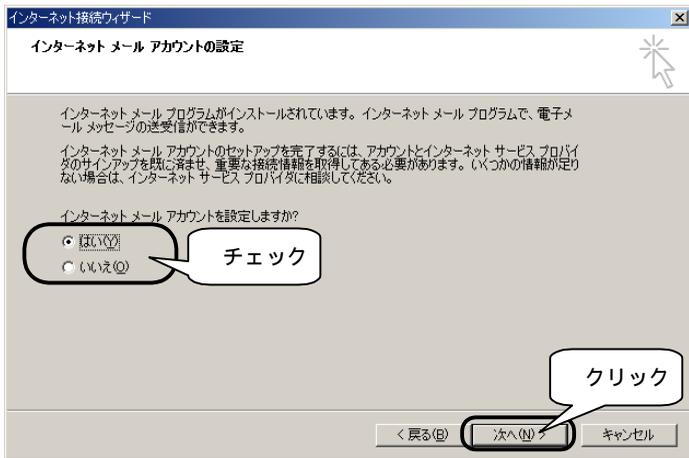
12

接続名 (任意) を指定し、[次へ] をクリックします。



13

メールを設定する場合は、[はい] をチェックし、[完了] をクリック後、手順 14 へお進みください。
メールを設定しない場合は、[いいえ] をチェックし、[完了] をクリック後、手順 15 (P29) へお進みください。



メールについての 設定を行います。

設定内容については、契約したプロバイダからの案内をご覧ください。(入力する内容など、詳細についてはプロバイダにご確認ください。)

The image displays four overlapping screenshots of the 'インターネット接続ウィザード' (Internet Connection Wizard) dialog boxes, showing the steps for configuring an email account:

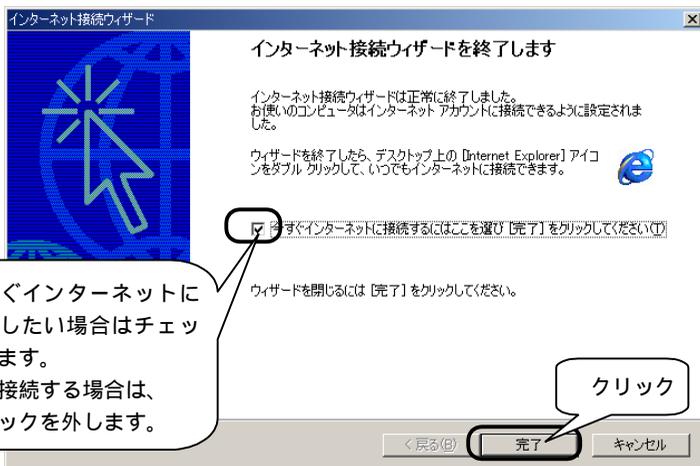
- インターネット接続ウィザード (Name):** The '名前' (Name) field is empty. Below the field, it says '電子メールを送信するとき、名前が [送信者] のフィールドに表示されます。表示したい名前を入力してください。' (When sending email, the name in the [Sender] field will be displayed. Enter the name you want to display.) The example name is '例: Taro Chofu'.
- インターネット接続ウィザード (Email Address):** The 'インターネット電子メール アドレス' (Internet email address) field is empty. Below the field, it says '電子メールのアドレスは、ほかのユーザーがあなたに電子メールを送信するために使います。' (The email address is used by other users to send you email.) The example address is '例: t-chofu@microsoft.com'.
- インターネット接続ウィザード (Server Name):** The '電子メール サーバー名' (Email server name) section has a dropdown menu set to 'POP3'. Below it, there are fields for '受信メール (POP3、IMAP または HTTP) サーバー名' (Receiving mail server name) and '送信メール (SMTP) サーバー名' (Sending mail server name). A note states: 'SMTP サーバーは、電子メールを送信するときに使用するサーバーです。' (SMTP server is the server used when sending email.)
- インターネット接続ウィザード (Login):** The 'インターネット メール ログオン' (Internet email login) section has fields for 'アカウント名 (A):' (Account name) and 'パスワード (P):' (Password). There is a checkbox for 'パスワードを保存する (S)' (Save password). A note states: 'メール アカウントをアクセスするときに、インターネット サービス プロバイダがセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を必要としている場合は、[セキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を使用する] をオンにしてください。' (When accessing the email account, if the Internet service provider requires security-protected password authentication (SPA), turn on [Use security-protected password authentication (SPA)].) There is also a checkbox for 'セキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を使用する (S)' (Use security-protected password authentication (SPA)). At the bottom, there are buttons for '< 戻る (B)' (Back), '次へ (N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

今すぐインターネットに接続したい場合

[今すぐインターネットに接続...]をチェックしたまま、[完了]をクリックします。
この後、次ページ【すぐにインターネットに接続した場合】を参照してください。

後でインターネットに接続する場合

[今すぐインターネットに接続...]を unchecked を外して、[完了]をクリックします。
インターネットへの接続は、33 ページ【後でインターネットに接続する場合】を参照してください。



これでダイヤルアップネットワークの設定は終了です。次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットを行ってみましょう。

《インターネット編》 インターネットを楽しもう

ここでは、【ダイヤルアップ接続の設定】(P22)で設定した「ダイヤルアップ接続」でインターネットサービスに接続する手順について説明します。

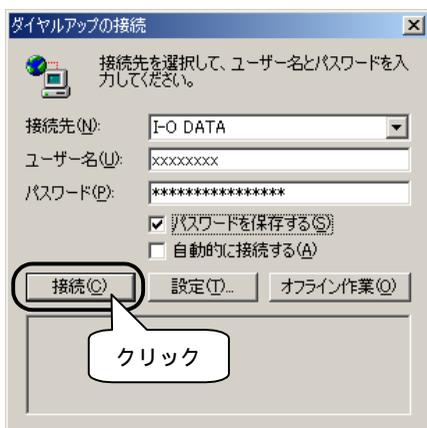
すぐにインターネットに接続した場合

ここでは、前ページの[インターネット接続ウィザード]画面で[今すぐインターネットに接続……]をチェックした場合のインターネット接続手順について説明します。



[ダイヤルアップの接続]画面が表示されます。

接続先 [ユーザー名][パスワード]は設定した値が入っていますので、[接続]ボタンをクリックすれば、指定した電話番号にかかりプロバイダと通信を開始します。

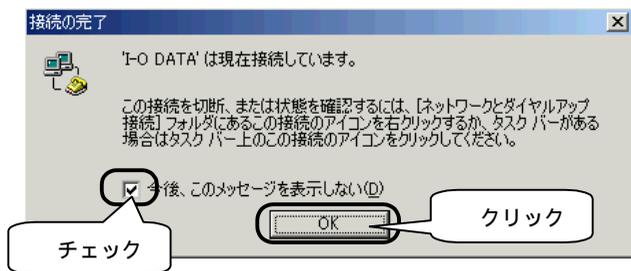


注意！

1. パスワードは「*****」と表示されます。表示は入力した文字数に関係なく16文字数分ほどの「*」が表示されます。(Windows 2000の仕様です。)
2. [パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが「*」印で表示されるので、パスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。
3. [自動的に接続する]をチェックすると、次回より[ユーザー名][パスワード]を入力する画面は表示されずに、ダイヤルアップ接続をダブルクリックするだけでインターネットに接続できるようになります。

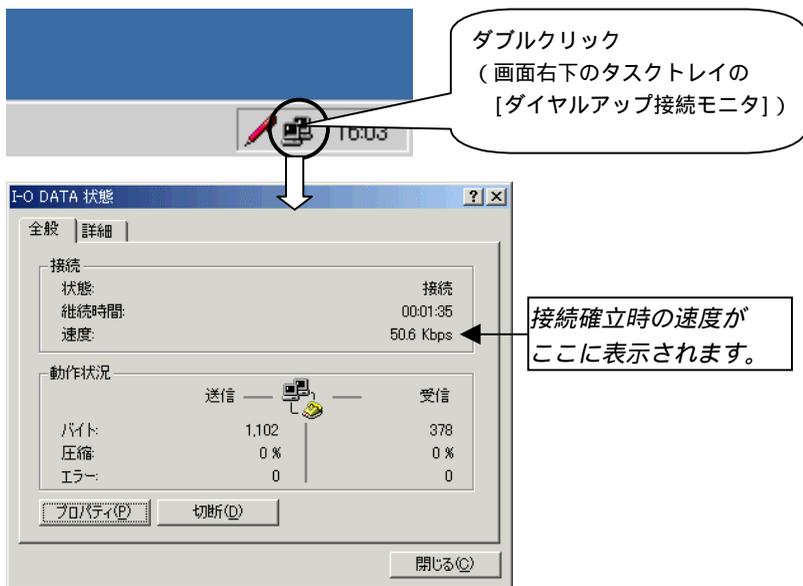
2

以下の画面が表示された場合は、[今後、このメッセージを...]を
チェックし、[OK]をクリックします。



3

接続が完了すると、画面右下の「ダイヤルアップ接続モニタ」アイコンが追加されます。「ダイヤルアップ接続モニタ」アイコンをダブルクリックすれば接続状況を確認できます。



「回線が使用中です」などと
表示された場合は...

【困ったときには】
本書 P39 をご参照ください。

4

ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[ダイヤルアップ接続モニタ]が表示されています。



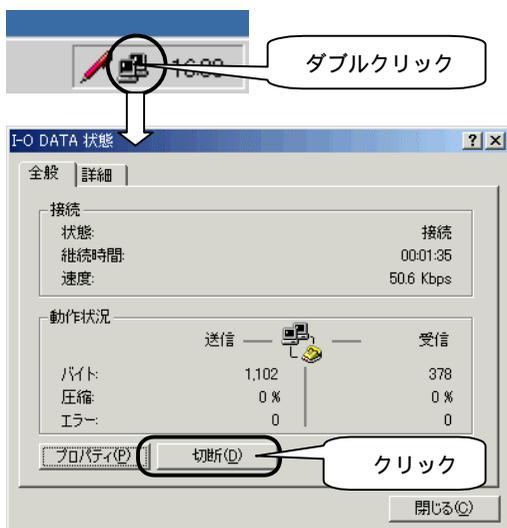
参考

Internet Explorer (以下 IE と略します) の場合、IE の[プロパティ] [接続]を開いて、設定したダイヤルアップを選択することができます。
その場合は、IE を起動するだけでダイヤルアップの接続画面が表示されます。

5

インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップ接続モニタ]をダブルクリックし、[切断]をクリックします。

これで電話回線が切断され、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えます。



注意！

ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず[切断]ボタンをクリックし、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えることをご確認ください。

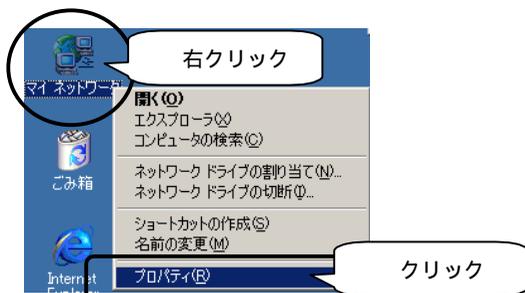
インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。



後でインターネットに接続する場合

ここでは、P80【ダイヤルアップ接続の設定】で作成した[ダイヤルアップ接続]からインターネットに接続する手順について説明します。

- 1 『マイ ネットワーク』を右クリックし、メニュー内の 『プロパティ』をクリックします。



- 2 『ネットワークとダイヤルアップ接続』画面内の 設定したダイヤルアップ接続をダブルクリックします。



3 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[ダイヤル]をクリックします。

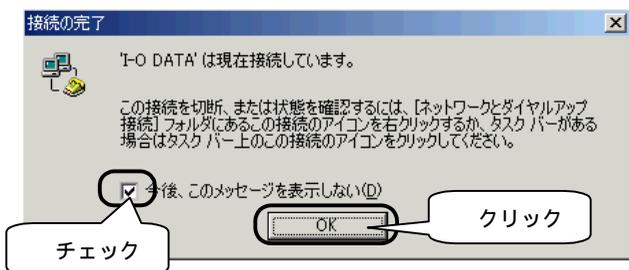
[ダイヤル]ボタンをクリックすると、指定した電話番号にかかりプロバイダと通信を開始します。



注意!

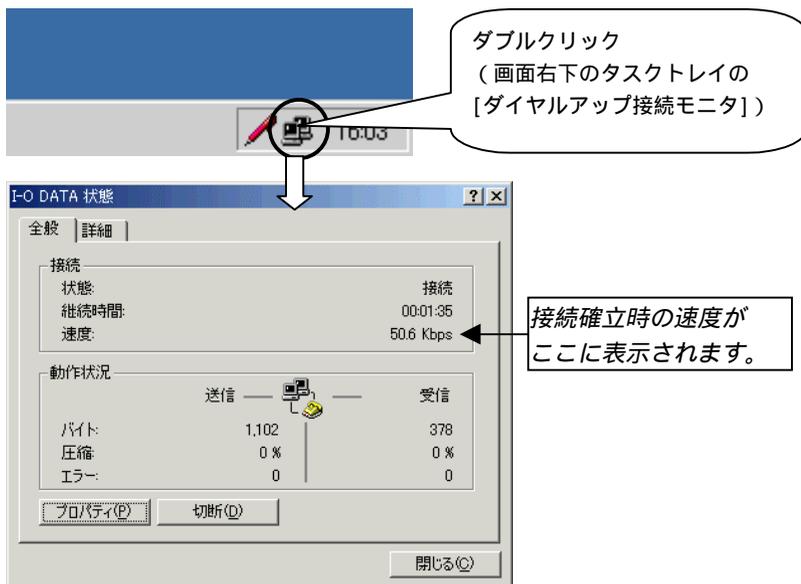
1. パスワードは「*****」と表示されます。
2. [パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが「*」印で表示されるので、パスワードを入力する必要がありません。
セキュリティの必要に応じてお使いください。

4 以下の画面が表示された場合は、[今後、このメッセージを...]をチェックし、[OK]をクリックします。



5

接続が完了すると、画面右下の「ダイヤルアップ接続モニタ」アイコンが追加されます。「ダイヤルアップ接続モニタ」アイコンをダブルクリックすれば接続状況を確認できます。



「回線が使用中です」などと
表示された場合は...

【困ったときには】
本書 P39 をご参照ください。

6

ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。

接続中は、ずっと[ダイヤルアップ接続モニタ]が表示されています。



参考

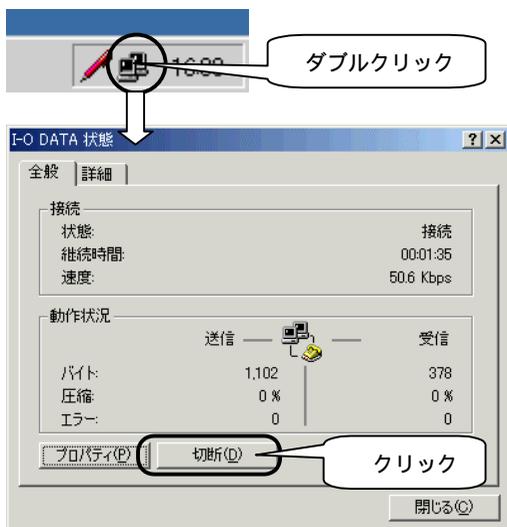
Internet Explorer (以下 IE と略します) の場合、IE の [プロパティ] [接続] を開いて、設定したダイヤルアップを選択することができます。

その場合は、IE を起動するだけでダイヤルアップの接続画面が表示されます。

7

インターネット利用が終わったら、画面右下の [ダイヤルアップ接続モニタ] をダブルクリックし、[切断] をクリックします。

これで電話回線が切断され、[ダイヤルアップ接続モニタ] が消えます。



注意!

ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。

必ず [切断] ボタンをクリックし、[ダイヤルアップ接続モニタ] が消えることをご確認ください。

インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。



困ったときには

インストール時のトラブル

本製品を取り付けているのにインストール画面が表示されない

原因 本製品がパソコンに正しく取り付けられていない。

対処 再度、正しく取り付けられているか確認してください。

原因 PCIバススロットに問題がある。

対処 本製品を別のPCIバススロットに取り付けてお試しください。

原因 初回検出時に、「その他のデバイス」として認識されている。
(検出されたが、インストールを中断した場合など)

対処 以下の手順に従ってください。

「マイコンピュータ」を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

「その他のデバイス」に以下が表示されていないか確認します。

「PCI シンプル通信コントローラ」

上記の表示をクリックし、[削除]ボタンをクリックします。

パソコンを再起動すれば、インストール画面が表示されます。

原因 パソコンのBIOSのCOMポートの割り当てがおかしい。

対処 パソコン本体のシリアル1,2の設定がAUTOになっている場合は、

COM1 03F8h/IRQ4

COM2 02F8h/IRQ3

に変更してお試しください。上記のように設定されている場合は、AUTOにしてお試しください。

インストール終了後の確認で、「I-O DATA IFML-560PCI」が表示されない

原因 ドライバのインストールが正常に行われていない。

対処 【インストールした情報を削除する場合】(P16)を参照し、いったん、サポートソフトを削除してください。
その後で、インストールをもう1度やり直してください。

インストール後の確認で、[I-O DATA IFML-560PCI]の頭に[!]マークが表示される

原因 PCIバススロットに問題がある。

対処 本製品を別のPCIバススロットに取り付けてお試してください。

原因 IRQの空きが無い。

対処 IFML-560/PCIを一旦取り外し、IRQの空きがあることをご確認ください。
IRQの使用状況については、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。

インターネット接続時のトラブル

「回線が使用中です」と表示される

- | | |
|-----------|---|
| 原因 | 接続先のアクセスポイントが混雑している。 |
| 対処 | [OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。時間を置いてもう1度接続するか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を設定してください。 |
| 原因 | 本製品のPHONE端子に接続した電話機が使用中である。 |
| 対処 | 電話機の使用が終わった後で通信してください。 |

「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」と表示される

- | | |
|-----------|---|
| 原因 | 接続先の電話番号が違っている。 |
| 対処 | [OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。接続アイコンを右クリックして、[プロパティ]を選び、正しい電話番号を(市外局番を含めて)入力してください。 |
| 原因 | 接続先のアクセスポイントが混雑している。 |
| 対処 | [OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。時間を置いてもう1度接続するか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を設定してください。 |

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました」と表示される

- | | |
|-----------|--|
| 原因 | 接続先の電話番号が違っている。 |
| 対処 | [OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。接続アイコンを右クリックして、[プロパティ]を選び、正しい電話番号を(市外局番を含めて)入力してください。 |
| 原因 | ユーザー名やパスワードが違っている。 |
| 対処 | [OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、もう1度、ユーザー名やパスワードを入力し、[OK]ボタンを押します。アルファベットの大文字や小文字に注意してください。 |

50000bps 以上で通信できない

原因 回線状況により、設定回線速度(特に 50000bps 以上)より低い速度で接続する場合があります。

対処 接続プロバイダが V.90 及び K56flex に対応しているか確認してください。
V.90 及び K56flex に対応していない場合は、最高 33600bps となります。

原因 PBX(構内交換機)の回線を利用している(内線(0 発信)等)場合は、
V.90 及び K56flex の本来の性能ができません。

対処 一般の NTT 加入電話回線経由でご利用ください。

原因 中継コネクタを使用して、モジュラーケーブルを延長されていると、
低い速度で接続する場合があります。

対処 モジュラーケーブルをできる限り短くしてご利用ください。

原因 分配した回線に接続していると、低い速度で接続する場合があります。

対処 分配していない回線に接続してご利用ください。

対処

次のATコマンドを設定し、接続速度の上限を下げてください。

電話回線の状況・品質によっては接続速度を下げた方がパフォーマンスが上がる場合もあります。(このような場合、本製品に接続している電話回線の状況・品質が影響していると考えられます。)

Windows 2000でのATコマンドの設定方法については、以下の【ATコマンドの追加方法】を参照してください。

・V.90の場合

AT+MS=V90,,,,,xxxxx

(xxxxx = 28000/29333/30667/32000/33333/34667/36000
/37333/38667/40000/41333/42667/45333/46667
/48000/49333/50667/52000/53333/54667/56000)

・K56flexの場合

AT+MS=K56,,,,,xxxxx

(xxxxx = 32000,34000,36000,38000,40000,42000,44000
46000,48000,50000,52000,54000,56000)

例えば、普段46000～50000bpsでプロバイダと接続されている場合、接続速度上限を44000bpsへ設定します。(普段接続されている速度から、数ランク速度をダウンします。)

V.90 の例) AT+MS=V90,,,,,46667

K56flex の例) AT+MS=K56,,,,,44000

それでもだめな場合は、V.34 コマンドを使ってください。

V.34 の例) AT+MS=V34,,,,,33600

Windows 2000 での AT コマンドの追加方法

1

『スタート』 『設定』 『コントロールパネル』を順にクリックします。

2

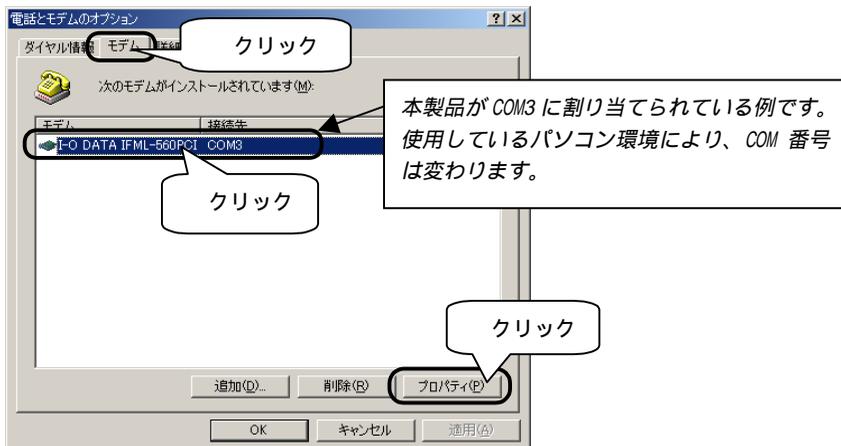
『電話とモデムのオプション』アイコンをダブルクリックします。



電話とモデムの
オプション

3

[モデム]タブをクリックし、[I-O DATA IFML-560PCI]、続けて
[プロパティ]をクリックします。

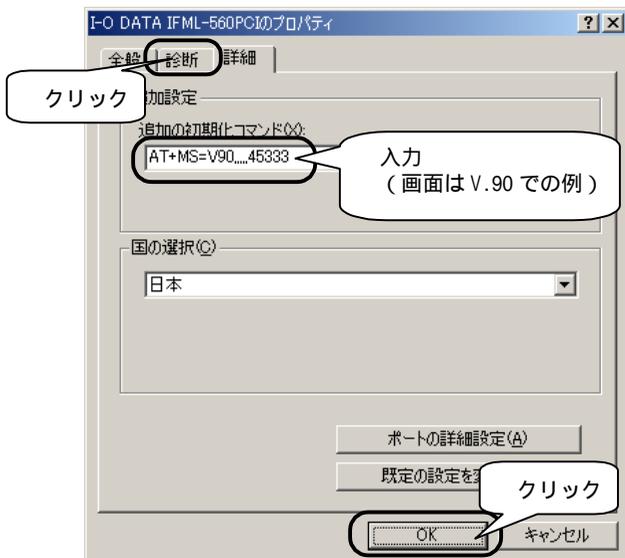


4

[詳細]タブをクリックし、[追加の初期化コマンド]のところに入力し、[OK]をクリックすればATコマンドが追加設定されます。

「AT+MS=V90,,,,,45333」 (V.90 の場合)

「AT+MS=K56,,,,,44000」 (K56flex の場合)



その他のトラブル

通信ソフトが起動できない

原因	通信ソフトの起動方法などが正しくない。
対処	インターネットへの接続が正しく動作すれば、通信ソフト側の問題が考えられます。通信ソフトの取扱説明書などをご参照ください。

ATコマンドを使用して通信できない

原因	ATコマンドに対するリザルトコードにより、エラー障害の切り分けができません。リザルトコードとは、エコーバックと呼ばれる応答信号のことです。
対処	リザルトコードの種類によって、以下のように、エラーの回復を試みてください。 ATコマンドでの操作を行うためには、別途ターミナルソフトをご用意いただく必要があります。（次ページ参照）



参考

本製品でサポートしている AT コマンドに関しては、「サポートソフトCD-ROM ディスク内の ¥manual フォルダ 内の Readme.txt ファイルを参照してください。

1. ERROR

ATコマンドに誤りがあります。マニュアルをよく読んで、パラメータなどをチェックしてください。

2. NO CARRIER

ダイアルコマンドを入力した時このエコーが表示された時は、回線が接続されていないか、こちらの呼び出しに対して接続先が応答信号を返さない状態です。まず、モジュラーケーブルが本製品やモジュラージャックに正しく接続されているかを確認してみてください。

補足 1: AT コマンドによる通信の動作確認

通信できない、あるいはモデムが正常に動作しないなどのトラブルが発生した場合、例えば、以下の手順のように Windows 標準の「ハイパーターミナル」で操作をたやすことができます。

1

「ハイパーターミナル」を起動します。

『スタート』 『プログラム』 『アクセサリ』 『通信』 『ハイパーターミナル』を順にクリックします。



参考

メニュー内に「ハイパーターミナル」が無い場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」の [Windows ファイル] タブから追加してください。

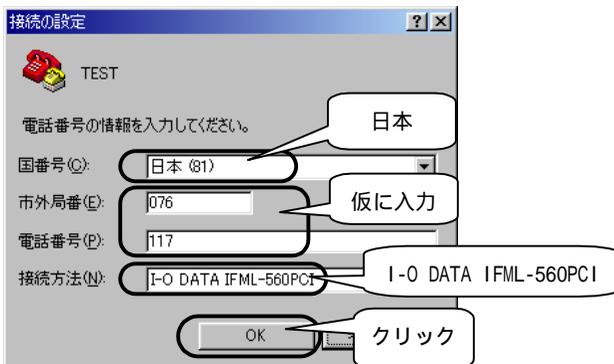
2

[名前]に適当な名前（例：TEST）を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



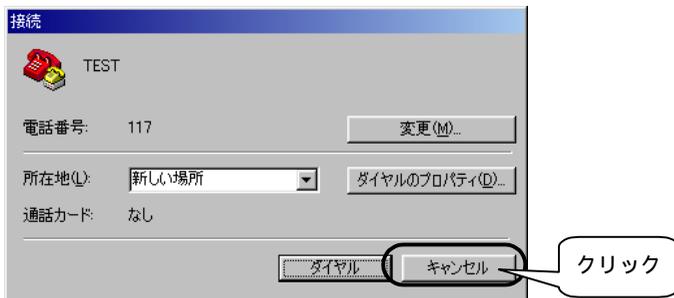
3

以下を設定して[OK]ボタンをクリックします。



4

[キャンセル]ボタンをクリックします。



5

[ハイパーターミナル]画面が表示されます。

6

[ハイパーターミナル]画面内に AT コマンドを入力して通信動作を確認することができます。

以下の画面例は、以下の AT コマンドを入力した例です。

これらの文字は、半角文字で入力する必要があります。

- AT
- AT&F
- AT&W
- ATX3
- ATDT xxxxxxxxxx

(xxxxxxxxは プロバイダ 等の 電話番号を入力します。
使用回線がパルス (ダイヤル) の場合は、
「ATDP xxxxxxxxxx」です。)

